

(公社) 日本植物学会2023年度事業報告

(2023年1月1日～2023年12月31日)

I. 事業の状況

事業の概要

本学会は、植物科学に関する研究の進展と知識の普及に関する事業を行い、学術の発展に寄与することを目的としている。2023年度は、下記の2公益事業を中心に、高い公益性を実現するための施策と事業を展開した。

(公益事業1) 学会誌及び学術図書の発行、及びインターネットによる植物学と関連技術の最新情報公表

学術雑誌の刊行については、Journal of Plant Research (JPR) 136巻1号～6号(6冊)の発行と電子出版を行った。科学研究費補助金「国際情報発信強化(B)」に関する事業を実施した。植物科学関連の学術集会、研究動向、出版物、研究助成公募、求人公募等の植物科学教育研究情報を収集し、その情報を学会情報誌や日本植物学会ウェブサイトを通じて提供した。さらに一般向け情報をウェブサイト上で公開した。国内外の研究機関に対して、JPRの寄贈と交換を行った。日本植物学会の所蔵図書を会員や外部閲覧希望者に無料で公開した。

(公益事業2) 研究発表大会及びシンポジウム・学術講演会・講習会の開催及び関連団体との協働による植物科学の発展と関連技術の振興の推進

定例学術集会として、日本植物学会大会をハイブリッドにて開催した(大会事務局は北海道札幌市に設置)。また社会への啓発活動等として、大会において一般公開講座および高校生研究ポスター発表会を開催した。これらに加えて、一般向け講演会をオンラインで開催した。学術業績の表彰その他研究の奨励として、日本植物学会賞の選考と授与を行った。さらに、大会時に高校生研究ポスター賞を贈呈した。また各種団体による賞・研究助成金公募への推薦を行った。国内外の関係学術団体、学術連合との連絡及び交流などを協力事業として行った。講演会、講習会等の後援を行った。その他、各地の関連学会を通じた研究動向調査、植物科学教育研究情報の収集と公開を行った。

1. 学会誌及び学術図書の発行、及びインターネットによる植物学と関連技術の最新情報公表(公益事業1)

ア. 学術雑誌及びその他の出版物の刊行(電子情報も含む)

JPR編集委員会

- (1) JPR 136巻1号～6号（論文頁数952頁、紙版：A4変形版、年6回隔月（奇数月）発行、発行部数 1080部、オンライン版：随時維持・整備、論文等記事のダウンロード数395,870）の編集と発行を行った。
- (2) 質の高い論文誌発行のため、以下の施策を実施した。
 - ① Current Topics in Plant Researchへの論文招待、Virtual issue（JPR Special Collections）の企画掲載、オープンアクセス論文の選考、を実施した。論文の掲載区分としてMilestones in Plant Researchを新設した。
 - ② インパクトファクターやその他の指標（分野別・国別被引用数、平均審査日数等）の解析を行い、ジャーナルの国際的な評価の向上策として、受賞記念論文1本、2023年度の論文賞1本、および Milestones in Plant Research論文1本の計3本の論文を（内2本は科学研究費の支援により、残り1本は学会の経費により）オープンアクセス化した。著者側の経費でオープンアクセスとした論文を加えて、オープンアクセス論文は計16報であった。
- (3) JPR編集協力委員（Editorial Board Member）の協力による編集体制の強化を図るとともに、読者データベースおよび投稿・審査システムを維持した。編集方針の整備と公開を行った。
- (4) 著者・購読者に対するサービスの向上のために、学会ウェブサイト上での和文要旨の公開、およびジャーナルウェブサイト上でのAims and Scopeの改善・公開を行った。
- (5) X（旧Twitter）による、JPR の発刊情報および掲載論文情報の発信を行った。
- (6) 編集委員会、拡大編集委員会（大会会期中）を開催し、JPRの質の向上のための意識統一と施策の検討を行った。

広報委員会

- (1) 植物科学関連の学術集会、研究助成公募、求人公募等の植物科学教育研究情報を収集し、日本植物学会ウェブサイトを通じて情報提供を行った。
- (2) 学会ウェブサイトのメンテナンスを実施し、利便性を高めた。
- (3) 一般向けサービスとして、ウェブサイト上でのハイスクール会友の入会案内を掲載した。
- (4) X（旧Twitter）によって、植物科学に関する情報発信（一般講演会や関連イベント、植物園や植物展示、最新研究紹介）を行った。
- (5) 一般講演会（2023年9月9日開催の北海道大会における一般公開講座「植物から見た北海道の自然」および2023年12月3日開催の一般向け講演会「植物が好き！-植物科学が拓く新しい世界-2023」）のオンライン配信の準備、運営を行った。

電子出版物編集委員会

- (1) BSJ-Review vol.14として、「植物細胞の分化運命の制御と可塑性」、「植物に見られる多様な栄養繁殖戦略」、「植物の多彩な生殖戦略を支える制御機構～もう一度花成を考えてみる～」の各総説の編集作業を行い、電子出版した。これらの総説にDOI番号を付与した。
- (2) BSJ-Review vol.15の編集方針を決定し、執筆者に原稿依頼を行った。

イ. JPRの国内外の研究機関への寄贈と交換

- (1) 国内外の研究機関等に対してJPRの寄贈と交換を行った。
- (2) JPRとの交換で得られた雑誌を本学会員や外部閲覧者に無料で公開した。

ウ. 植物学関連図書の閲覧公開

東京大学大学院理学系研究科附属植物園に保管している日本植物学会の所蔵図書を、会員や外部閲覧希望者に無料で公開した。

2. 研究発表大会及びシンポジウム・学術講演会・講習会の開催及び関連団体との協働による植物科学の発展と関連技術の振興の推進（公益事業2）

ア. 学術集会、講演会、講習会などの開催

ア-1. 大会として

大会実行委員会

- (1) 日本植物学会第87回大会を2023年9月4日、9月7日から9月9日までの4日間、ハイブリッド（対面・オンライン）にて開催した（大会事務局は北海道札幌市に設置）。参加者は995名、演題は615題であった。大会の要旨集（316ページ）を作成し発行した。一般向け公開講演会「植物から見た北海道の自然」（2023年9月9日に対面・Zoomウェビナーにより開催）の企画と実施、およびシンポジウムの公募と選定を行った。公募シンポジウム、口頭・ポスター発表、高校生ポスター発表会、展示ブースのためのプログラム作成とハイブリッド開催のための準備を行った。ダイバーシティ推進ランチョンセミナー「コロナ禍を経て大会のこれからを考える～あらゆる世代に活用される大会とは？」（2023年9月8日実施）を、理事会、ダイバーシティ推進委員会と協働で実施した。
- (2) 会員サービスとして、講演要旨集の電子媒体（電子ブック版）での提供を行った。
- (3) 大会の実施にあたって、運営に関しては庶務担当理事と、経理に関しては会計担当理事と連絡を密にし、大会の運営にあたった。
- (4) 日本植物学会賞受賞者（大賞1件、学術賞1件、奨励賞4件、若手奨励賞3件、特別賞2件、JPR論文賞3件）の授賞式と講演会を行った。高校生ポスター発表会の優秀ポスターについて、表彰を行った。

広報委員会

日本植物学会第87回大会における理事会主催シンポジウムを企画し、「植物科学の温故知新 ～この30年を振り返り、次の30年後を考えよう!～」と題するシンポジウムを行った。

ダイバーシティ推進委員会

日本植物学会第87回大会におけるダイバーシティ推進ランチョンセミナーを大会実行委員会と企画し、「コロナ禍を経て大会の‘これから’を考える ～あらゆる世代に活用される大会とは？」と題するダイバーシティ推進に関するセミナーを行った。

運営委員会

- (1) 庶務担当理事は大会の運営に関して、会計担当理事は大会の経理に関して、大会実行委員会の担当者と協議し運営を補佐した。
- (2) 庶務担当理事は、年次学術集会中の以下の委員会の開催について、大会実行委員会の担当者と協議した（運営委員会、臨時代議員会、JPR編集委員会、JPR拡大編集委員会、日本植物学会関連団体意見交換会、学会賞選考委員会、拡大広報・電子出版物編集委員会、ダイバーシティ推進委員会、大会引き継ぎの会合）。

ア-2. 学会全体として

一般向け講演会「植物が好き！-植物科学が拓く新しい世界-2023」（2023年12月3日）を企画し、オンラインにより開催した（当日参加あるいは見逃し配信の登録者は480名、当日参加は95名）。また、2024年シロイヌナズナ国際会議（ICAR2024）への参加費用をサポートするICAR派遣補助金を整備した。その他、以下の講演会、講習会等の後援および協賛を行った。

後援3件

- (1) 「『青少年のための科学の祭典』2023」（主催：（公財）日本科学技術振興財団 人材育成部「青少年のための科学の祭典事務局」）2023年6月10日～2024年1月21日 会場：全国44会場
- (2) 「第13回 高校生バイオサミット in 鶴岡」（主催：高校生バイオサミット実行委員会（慶應義塾大学先端生命科学研究所、山形県、鶴岡市）2023年8月21日～8月23日 場所：慶應義塾大学先端生命科学研究所バイオラボ棟および鶴岡市先端研究産業支援センター
- (3) 「Plant Microbiota Research Network 第3回オンラインシンポジウム」（主催：Plant Microbiota Research Network）2023年8月25日 場所：オンライン（ZOOM）

協賛1件

- (1) 「第23回 マリンバイオテクノロジー学会大会」（主催：マリンバイオテクノロジー学会事務局）2023年5月27日～5月28日 場所：金沢市文化ホール

イ. 研究業績の表彰その他研究の奨励

学会賞選考委員会

- (1) 2023年度日本植物学会賞候補者の選考（大賞、学術賞、奨励賞、若手奨励賞、特別賞（技術・教育・その他））を行い、会長に報告してその承認を得るとともに、理事会に報告した。
- (2) 2023年度日本植物学会賞の選考にあたり、候補者の募集を行った。

JPR編集委員会

JPRに掲載された論文からJPR論文賞候補を選考し、会長に報告してその承認を得るとともに、理事会に報告した。

ウ. 国内外の関係学術団体との連絡及び協力

学協会委員

生物科学学会連合、光生物学協会、自然史学会連合、男女共同参画学協会連絡会に委員を派遣し、協力した。

ダイバーシティ推進委員会

第21期男女共同参画学協会連絡会の運営委員会、同連絡会主催のシンポジウムに参加し、協力した。

学会全体

- (1) 日本学術会議第二部基礎生物学委員会、統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会と連携し、日本の政策決定に向けて提言の作成、および提言を実現するための具体的な施策に関する事項を担当した。
- (2) 生物科学学会連合を通じて、参加学会との連携・協力を行った。
- (3) 各地の植物学会との連携・協力を行った。

エ. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

各地の植物学会を通じて、研究動向調査を行った。広報委員会を通じて、植物科学教育研究情報の収集とウェブサイトでの公開を行った。

3. 管理業務

運営委員会

- (1) 2023年度の事業報告案と決算案を検討、作成した。
- (2) 2023年度補正予算案及び2023年度の事業計画案と予算案を検討、作成した。
- (3) 学会全体と学会内の委員会が関与する諸事項を検討し、事前に対応策を立案し、理事会へ提案した。
- (4) JPR編集委員会の支援を継続的に行った。
- (5) 学会の財政基盤と運営を安定化するために、総合的な検討を行った。また、会員管理と会計管理の外部委託を検討し、2024年度委託開始の契約を行った。さらに安定的な大会運営に向けた基金の整備を行った。
- (6) 学会の活性化のため、会員数の維持・増加にむけての方策を検討した。
- (7) 日本植物学会表彰制度の実施と広報の活発化を図った。
- (8) 学会運営の合理化に関して、予算措置を含め検討し、効率的な学会の構築策を立案した。

- (9) 公益法人資格を維持するために必要な業務を行った。
 - ① 公益法人認定基準に照らした学会運営状況を確認した。
 - ② 内閣府公益認定等委員会へ事業計画、事業報告等を提出した。

庶務関係

- (1) 代議員会開催に関する準備と運営を行った。
- (2) 公益社団法人日本植物学会2025年期会長候補者選挙事務を行った。
- (3) 会員サービスの向上を目的として各地の植物学会との連携を推進した。
- (4) 関連委員会との連携を強化した。
- (5) 公益法人体制における各種規程・契約の審議基準の見直し等、本部業務全般に渡る業務効率化の推進を行った。

会計関係

- (1) 2023年度の経理管理と決算処理を遂行し、2024年度予算案を策定した。
 - ① 単年度経常収支均衡を原則とする弾力性のある経理管理を行った。
 - ② 会計報告(月次)および決算報告(年次)を行った。
 - ③ 単年度経常収支均衡の原則下での活力のある学会を目指した予算を策定した。
 - ④ 収入増、支出減のための所要の施策を検討した。
- (2) 各委員会等の新規事業立案に対して経理面での建議、支援を行った。
- (3) 各種引当預金の使用計画を具体的に策定した。
 - ① 中長期的視点に立った使用計画を立案した。
- (4) 中長期的学会運営に関し経理面の課題を検討し、会員・会計管理業務の外部委託を含む対策を立案した。

広報委員会

- (1) ウェブサイトの恒常的なメンテナンス作業を行った。
- (2) ウェブサイトのアクセス解析を行い、コンテンツの向上を図った。
- (3) 委員長が運営委員会に運営委員として、また理事会にオブザーバーとして参加し、広報活動の強化に関して提言を行った。
- (4) オンラインによる公益社団法人日本植物学会2025年期会長候補者選挙実施の補助を行った。

選挙管理委員会

公益社団法人日本植物学会2025年期会長候補者選挙を実施した。

II. 処務の概要

1. 定例代議員会1回、臨時代議員会1回、理事会8回、運営委員会3回およびその他の会合を開催した。
2. 諸規則の整備を行った。
3. 公益社団法人日本植物学会2025年期会長候補者選挙を実施した。（2023年11月20日開票）

4. 役員等に関する事項

(1) 2023年 会長、理事、監事

【役員・理事】

代表理事（会長）	寺島 一郎	（東京大）
専務理事	野口 航	（東京薬科大）
副専務理事	杉山 宗隆	（東京大）
編集担当理事	且原 真木	（岡山大）
理事	川合 真紀	（埼玉大）
理事	高野 博嘉	（熊本大）
理事	東山 哲也	（東京大）
理事	彦坂 幸毅	（東北大）
理事	松永 幸大	（東京大）
理事	森田(寺尾)美代	（基生研）
庶務担当理事	大谷 美沙都	（東京大）
会計担当理事	平川 有宇樹	（学習院大）
【役員・監事】		
	三村 徹郎	（京都先端科学大）
	久堀 徹	（東工大）

(2) 公益社団法人日本植物学会第6期代議員 43名

所属地区 (代議員定数)	氏名	所属
北海道 (2名)	田中 亮一	北海道大学 低温科学研究所
	露崎 史朗	北海道大学大学院 地球環境科学研究所
東北 (3名)	彦坂 幸毅	東北大学大学院 生命科学研究科
	宮沢 豊	山形大学理学部 生物学科
	横山 潤	山形大学理学部 生物学科
北陸 (2名)	唐原 一郎	富山大学 学術研究部 理学系
	西山 智明	金沢大学学際科学実験センター遺伝子研究施設
東関東 (5名)	井川 智子	千葉大学大学院 園芸学研究科
	小野 道之	筑波大学 遺伝子実験センター
	朽津 和幸	東京理科大学 理工学部 応用生物科学科
	國府方 吾郎	国立科学博物館 植物研究部
	松永 幸大	東京大学大学院 新領域創成科学研究科
西関東 (5名)	川合 真紀	埼玉大学 理工学研究科
	刑部 祐里子	東京工業大学 生命理工学院
	児玉 豊	宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター
	日原 由香子	埼玉大学大学院 理工学研究科
	吉本 光希	明治大学 農学部生命科学科
東京 (7名)	川北 篤	東京大学大学院 理学系研究科附属植物園
	榊原 恵子	立教大学 理学部生命理学科
	塚谷 裕一	東京大学大学院 理学系研究科
	土松 隆志	東京大学大学院 理学系研究科
	成川 礼	東京都立大学大学院 理学研究科
	東山 哲也	東京大学大学院 理学系研究科
	矢守 航	東京大学大学院 農学生命科学研究科
中部 (5名)	小田 祥久	名古屋大学大学院 理学研究科
	木下 俊則	名古屋大学 トランスフォーメティブ生命分子研究所
	長谷部 光泰	基礎生物学研究所
	宮城島 進也	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
	森田(寺尾)美代	基礎生物学研究所 植物環境応答研究部門
近畿 (7名)	荒木 崇	京都大学大学院 生命科学研究科
	池内 桃子	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科
	遠藤 求	奈良先端科学技術大学院大学
	瀬戸口 浩彰	京都大学大学院 人間・環境学研究科
	松下 智直	京都大学大学院 理学研究科
	宗景 ゆり	関西学院大学
	吉田 聡子	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科
中国 (3名)	池田 陽子	岡山大学 資源植物科学研究所
	且原 真木	岡山大学 資源植物科学研究所
	沈 建仁	岡山大学 異分野基礎科学研究所
四国 (1名)	峯 一朗	高知大学 理工学部 生物科学科
九州 (2名)	高野 博嘉	熊本大学大学院 先端科学研究部
	柘亘 淳太郎	九州大学大学院 理学研究院
沖縄 (1名)	傳田 哲郎	琉球大学 理学部 海洋自然科学科

5. 代議員会

(1) 定例代議員会

2023年3月5日(金) 13:00-15:10、日本植物学会事務局ならびに ZOOM によるオンラインで開催され、次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催年月日	議決事項	
2023年 3月5日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 2022年度決算報告(案)	承認
	第2号議案 理事・監事の選任について	承認

(2) 臨時代議員会

2023年9月6日(水) 16:00-18:48、北海道大学工学部(C会場)にて、Zoom を併用したハイブリッドで開催され、次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催年月日	議決事項	
2023年 9月6日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 2024年度事業計画(案)	承認
	第2号議案 公益社団法人日本植物学会 2023年度収支補正予算(案)	承認
	第3号議案 公益社団法人日本植物学会 2024年度収支予算(案)	承認
	第4号議案 令和6年資金調達及び設備投資の見込みについて	承認

6. 理事会

(1) 2023年度第1回理事会

2022年2月11日(土) 13:00-17:10、日本植物学会事務局ならびに ZOOM によるオンラインで開催され、以下の審議を行った。

開催年月日	議決事項	
2023年 2月11日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 2022年度事業報告(案)	承認
	第2号議案 公益社団法人日本植物学会 2022年度決算報告(案)	承認
	第3号議案 2022年度決算における剰余金解消予定について	承認
	第4号議案 特定費用準備資金「JPR オープンアクセス助成基金」の使途と使用年度の変更について	承認
	第5号議案 理事・監事の選任について	承認
	第6号議案 次期運営委員について	承認
	第7号議案 JPR 編集室非常勤職員の時給手当について	承認
	第8号議案 図書関連の利用案	承認
	第9号議案 ダイバーシティ推進委員会の任期について	承認
	第10号議案 大会登録時における属性調査について(ダイバーシティ推進委員会からの提案)	承認
	第11号議案 安定した学会運営について	承認
	第12号議案 入会の事務手続きの変更について	承認
	第13号議案 名誉会員として議論された柴岡弘郎氏の永年功労者認定について	承認
	第14号議案 会費未納による会員資格喪失対象者について	承認
	第15号議案 2023年度定例代議員会について	承認
	第16号議案 2023年度定例代議員会に於ける書面による議決権行使の承認並びに書面による議決権行使期限の承認について	承認

(2) 2023年度第2回理事会

2023年3月5日(日) 15:10-17:10、日本植物学会事務局ならびに ZOOM によるオンラインで開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2023年 3月5日	第1号議案 会長及び業務執行理事の選定について	承認
	第2号議案 ダイバーシティ推進委員会に関する内規の改訂について	承認
	第3号議案 参加者属性調査に関する大会覚書の改訂について	承認

(3) 2023年度第3回理事会

2023年3月29日(水)、定款29条2項に基づく理事会決議において開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2023年 3月29日	第1号議案 非常勤職員の契約と昇給について	承認

(4) 2023年度第4回理事会

2023年7月29日(土)、13:30-18:05、公益社団法人日本植物学会事務局ならびに ZOOM によるオンラインで開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2023年 7月29日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 2024年度事業計画(案)	承認
	第2号議案 公益社団法人日本植物学会 2023年度収支補正予算(案)	承認
	第3号議案 公益社団法人日本植物学会 2024年度収支予算(案)	承認
	第4号議案 令和6年度資金調達及び設備投資の見込みについて	承認
	第5号議案 公益社団法人日本植物学会 役員・委員等選出方法概要の改訂について	承認
	第6号議案 公益社団法人日本植物学会大会開催に関する覚書の改訂について	承認
	第7号議案 公益社団法人日本植物学会賞受賞者選考規程の改訂について	承認
	第8号議案 業務委託の可能性を含めた事務局の在り方を考えるワーキンググループ(外部委託WG)の報告と今後の方針について	承認
	第9号議案 公益社団法人日本植物学会契約委員(宇都宮大会)の承認について	承認
	第10号議案 2023年度臨時代議員会について	承認
	第11号議案 2023年度臨時代議員会に於ける書面による議決権行使の承認並びに書面による議決権行使期限の承認について	承認

(7) 2023年度第5回理事会

2023年8月1日(火)、定款29条2項に基づく理事会決議において開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2023年 8月1日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会出張規程の変更について	承認

(8) 2023年度第6回理事会

2023年9月21日(月)、定款29条2項に基づく理事会決議において開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2023年 9月21日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会契約委員(外部委託)の承認について	承認

7. その他 諸規則の整備を行った。

III. 会員の推移（夏期）

【人】

会員種別	2013. 8. 1	2014. 8. 13	2015. 8. 18	2016. 8. 23	2017. 7. 21	2018. 7. 12	2019. 7. 3	2020. 7. 6	2021. 7. 9	2022. 7. 10	2023. 7. 2
名誉会員	7	7	7	7	6	5	5	5	3	8	7
正会員	1,907	1,903	1,874	1,826	1,818	1,812	1,741	1,692	1,661	1,674	1,840
内終身会員	11	10	10	10	10	9	8	8	8	7	7
内50年会員	124	121	118	114	112	109	113	102	101	105	107
内シニア会員							48	80	94	101	102
内学生会員	408	426	451	405	421	411	383	357	353	373	482
内上記以外の 正会員	1,364	1,346	1,331	1,297	1,275	1,283	1,189	1,145	1,105	1,088	1142
団体会員	14	14	14	10	10	10	10	10	9	9	9
賛助会員	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
海外個人 会員（日本人含む）	137	124	126	134	133	147	152	132	110	108	34
合計	2,067	2,049	2,022	1,978	1,968	1,975	1,909	1,841	1,784	1,800	1,891

IV. JPRの出版状況の推移

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
投稿件数	481	562	520	632	651	712	511	928	797	705	726
（国内）	62	61	53	73	69	70	61	59	49	40	53
（海外）	419	501	467	559	582	642	450	869	748	665	673
出版論文数	81	74	86	106	95	86	67	67	96	58	65
（国内）	37	37	43	50	45	44	34	32	38	21	25
（海外）	44	37	43	56	50	42	33	35	58	37	40
IF	2.507	1.823	1.684	1.899	2.000	2.082	2,185	2.629	3.000	2.8	未定

V. 学術集会（大会）の参加者数・演題数の推移

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
開催地	北海道	神奈川	新潟	沖縄	野田	広島	仙台	名古屋	東京	京都	北海道
参加者数	808	1,002	910	669*	964	846	815	1,199	936	1135	962
演題数	552	547	513	524	613	568	563	541	542	625	615

*大会参加費を支払った人数

事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。